

太田直樹総務大臣補佐官と当社材木正己社長が対談。 地方創生・貢献のモデルケースとして 日東精工が総務省の広報誌に紹介されました。

太田直樹総務大臣補佐官がホストとなり、アベノミクスの根幹のひとつ、地方創生に絡めて、企業等のトップと対談する企画が総務省の広報誌「総務省(MIC)」で始まりました。

総務省が注目する企業として連載第1回に選ばれたのが当社・日東精工です。

総務省の広報誌を手に入る機会がない方のために、ここに転載いたします。



綾部を良くし日本を良くする

太田 本日はお時間を頂戴し、ありがとうございます。地方から日本を元気にする、ローカル・アベノミクスの効果を地方にまできちんとお届けするという政府のミッションを踏まえて、今日は様々なお話を伺えたらと思います。

材木 私は地方の良さはすごくあると思っておりまして、我々は地方の役割で国を支えていこうと思っています。このことをまず申し上げたい。日東精工は創業時から雇用で地域に貢献するという考え方の会社で、創業以来、本社を京都北部の綾部市に置いています。この創業精神は絶対に引き継いでいきます。

太田 素晴らしい創業精神だと思います。しかし、綾部を拠点とし続けることでご苦労もあるのではないですか。

材木 綾部の良さはもちろんありますが、地方にいると刺激が少なく、時流に遅れがちになるというの

も事実です。人は色々な修羅場をくぐって、経験を積んで伸びていきます。だから、我が社でもマーケティング担当者は東京に駐在させ、情報のあるところに配しています。私も時間の許す限り全国を飛び回っています。マーケットを読む力が落ちるからです。一流の人に会いに行き、いろんなことを勉強して、成長していかないといけないですから。

太田 今は東京一極集中ということで、その点の是正が必要ですが、一方で現実としては、綾部市も人口が減っている。将来をどのようにお考えですか。

材木 私は人間の心理は、歳をとったらふるさとに帰りたいと思うものだと考えています。生まれたところを皆が愛しているのですよ。しかし、ブレーキになるものがあるから帰ろうとしない。

太田 最近のアンケートで、地方で過ごしたいというシニアの方が4割くらいいたと思います。想いは4割なのですが、地方に病院があるのだろうかとか、もう少し若い方であれば学校はどうするのかとか、



太田直樹総務大臣補佐官(右)と
当社材木正己社長

今社長が仰った様々なブレーキがありますね。あとは何と言っても、地方に仕事があるのかという問題があります。個々の企業の努力はあると思いますが、地方では一人250万円くらいの給与の非正規雇用者が増えています。安倍総理になってデフレ脱却ということで賃上げ要請の話もあります。賃金を維持していく点でご苦労はありますか。

材木 我が社は正社員比率が高く、90%以上です。そこに60歳を超えた再雇用の方を加えるとほぼ100%になります。65歳からの年金満額支給までは有期雇用をしています。雇用を大切にするという創業当時の理念に従い、ずっと働き続けられる会社でありたいと思います。また、賃上げの件ですが、我が社は、私も含めて皆がここで働いてよかったと思えるように、そして金銭的にも豊かになるようがんばっています。従業員にも家族がいますし、物心ともに豊かさのある会社にしようと努力しています。国にお世話になりながら、単なるマネーゲームで利潤を追求するというのは意味のない儲け方だと思います。

大切なのは人を育てること

太田 売上成長が直近10年くらい厳しい中で、利益を維持することはなかなかできることではないと思いますが、その中でも、雇用を維持されているというのは特に素晴らしいと思います。

材木 我が社の財産は人です。ある程度の企業規模になったら一人一人の力が大切です。今年で50年くらいになりますが、我が社は昭和41年から綾部で夜間学校（綾部工業研修所）をやっています。皆で勉強して知識を得て、この地域の技術者の底上げになればと思い、始めたもので、週に一回、一年間、80%以上出席しないと卒業できないようになっています。特徴的な取組だと思います。また、我が社では入社したての人や幹部の人など、自分の力や会社における位置づけを見るために節目ごとのチェックをしています。そこで昨年、創業77年に合わせてそのエッセンスをまとめた『人生の「ねじ」を巻く77の教え』という本を出しました。これがなかなかご好

評をいただきました。ねじというのは、パソコンでも時計でも眼鏡でも使っていますが、普段から意識はしないですね。しかしねじがなかったら組み立てることもできません。

太田 一本一本全部大事だということですね。

材木 そうです。つまり、一人一人が大切な役割を果たしているのですよ、というのがこの本の一番言いたいことです。ねじに日東精工の名前は出ていません。全部メーカーさんに出荷するだけですが、寒い工場の中で一生懸命がんばっている人がいないと、パソコンも携帯電話も動かないわけです。あと、人材という面で言えば、我が社では社長直轄プロジェクトの一つとして、「京☆おんな・なでしこプロジェクト」を展開しました。1年間の育児休業を我が社では100%取得していますので、休んでいる間や復帰する時のサポート体制をもっとしっかりと作りたいと思っています。

お客様満足度にこだわって海外へ

太田 最後に為替の話なのですが、昨年末に1ドル120円までいって、150円まで円安が進行するなどという記事もありますけれども、御社の場合だと半分以上は海外で作っていて、国内の売上げが7割以上ある状況ですが、例えば超円安になった時の経営方針などはお考えですか。



太田直樹大臣補佐官には京都府綾部市にある日東精工本社にお越しいただき、対談のほか、当社工場モノづくり現場視察もされました。

材木 基本的には、為替リスクのヘッジは売り買いのバランスを取るだけです。私たちの考え方の基本は、お客様満足度を上げることです。ですから海外に行くと言っても、海外の労務費の方が安いからそこで作って日本に出荷する、という考え方ではありません。例えばタイに我が社の大切なお客様がいれば、綾部から商品を送るには距離のリスクもあるし、困ったときにもパッと行ける、それで結果として海外6ヶ国8拠点に進出しています。

太田 言ってみれば地産地消ということですか。

材木 そう。地産地消です。お客様が満足していない中で入るお金は増えません。我が社はしっかり知恵と汗を出していこうと思います。

対談は2015年1月27日午後におこなわれました。総務省の広報誌はホームページからダウンロードして閲覧が可能です。
<http://www.soumu.go.jp/>
 また本記事の掲載に当たっては総務省の許可を得ています。

NITTO's TOPICS

「明日の名工」に当社社員が選ばれました。

京都府では、モノづくりにかかわる産業に従事する優れた青年技能者を称える「青年優秀技能者奨励賞（明日の名工）」表彰を行っています。

平成26年度は13名が選ばれ、当社からは加工組立課で生産設備機械の部品製造や加工に携わっている廣兼靖彦係長が受賞、表彰されました。廣兼係長は汎用フライス盤と数値制御加工機を駆使して、高品質かつ短時間で生産する技術を持つ人物、とくにねじ製造機の部品製作では、精度の厳しい重要部品の加工治具や加工方法を考案してきました。

日東精工の誇り、宝は「人財」です。いろいろな分野において、こういった中堅やベテランの名工や匠がたくさんいて、技術を伝える、つなげる努力をしています。

あやべ市民新聞で表彰の様相が紹介されています



日本投資環境研究所でIR説明会を開催

2015年2月24日(火)東京・日本橋にある日本投資環境研究所にて、投資家の方を対象にした2014年12月期決算説明会を開催しました。当社 材木正己社長がパワーポイントを使いながら、会社概要や前期2014年12月期の事業業績が増収増益であったことを報告・説明し、新中期経営計画「日東パワーアッププランFINAL」に基づく、今後の展望、たとえば自動車分野に注力し海外強化していくといったことなどを紹介させていただきました。いろいろな視点、立場からのご質問もたくさん頂戴し、日東精工の潜在力や魅力をアピールできる場となりました。



IR説明会では当社の製品の一部やパンフレットも掲出しました。なお、2014年期決算については当社ホームページにて掲出しています。

「遅れました」という報告は命令違反 —正しいビジネス用語の理解

4月は新入社員への対応などで、若い人の言葉遣いに戸惑ったり、それはまずいでしょうと、注意や指導を必要とすることが多いかもしれません。でも若者言葉だけでなく、各職場でビジネス用語の再点検をされてはいかがでしょうか。「ほうれんそう」という言葉、今や、誰もがよく知っている「報告・連絡・相談」の頭一字をとったビジネス用語ですね。でもこの「報・連・相」を安易に考えている人が少なくありません。

たとえば上司から仕事を依頼されて、その期日までにできなかったときに、「すみません、遅れました」という報告。これで報告義務が済むものではありません。正しくは、仕事を進めながら、このままでは期日に遅れそうだと気づいたそのときに、速やかに上司に中間報告をして適当な指示を仰ぐこと、これが正しい報告となるのです。それに「決定」とは「為す



「人生の「ねじ」を巻く77の教え」(ポプラ社)は当社オリジナル教則本を一般向けに再編集したものの書籍に掲載していないものや重複しても更新していくべきものを随時ここでご紹介していきます。

べきことを決めると同時に期限が明示される」というのが、正しい定義ですから、「遅れました」は、「命令違反をしました」と同意味の言葉なのです。「承認」という言葉も、そのうしろに「承認を得たから」といつて本来の責任を軽くされることはない」とつけて解釈しましょう。そうしないと「部長の承認をもらったよ」と承認をもらったから安心という気のゆるみが出たりするからです。

なにげなく使っている「ほんの少し」「誰もが」といった表現も量的な受けとめ方には大きな差があるものです。この際、作業の手順書など総点検して、解釈に差がでるような表現があれば、早速に改定をしてください。

(経営コンサルタント 蒲田春樹)



ねじのある街・あやべの魅力

新・旧が共存する公園。 1500年前の古墳の下を 高速道路が走っています

日東精工本社がある綾部には「私市円山古墳」があります。京都府内では最大規模の古墳で、由良川中流域を治めていたふたりの王を埋葬したものです。墳丘は3段構成となっていて墳丘の1段目と2段目の平坦部には円筒埴輪が並べられています。墳頂部の中央から発見された木棺内からは、短甲・冑・鉄刀・鉄鏃・農工具・鏡・玉類などの副葬品、貴重な金箔をはった胡籙(ころく)矢を入れる武具なども出土し、往時の王の権力が偲ばれます。

古墳は約1500年前のものと推定されるのですが、じつは発見からはさほど年月は経っておらず、昭和63年に高速道路の舞鶴若狭自動車道建設調査で見つかったものです。

古墳保存のために高速道路は予定されていた「切り通し」から「トンネル」に設計変更されました。つまり、古墳の下を高速道路



私市円山古墳 (きさいちまるやまこふん)。墳丘直径70メートル、高さ約10メートルで京都最大の古墳。円筒埴輪の後ろに光るのは高速道路の光

©綾部市観光協会

が通っているのです。現在古墳は葺石が敷き直され円筒埴輪のレプリカが並べられ、「古墳公園」として復元・整備されています。年に1回古墳まつりが開催されるなど、市民の憩いの場となっています。1500年前と現代が共存しているわけですね。「温故知新」「新旧バランスの大切さ」を示唆してくれる公園といえるかもしれません。